ささやき　9月号　NO,136

『心を動かす体験』



長い夏休みが終わり、今日から２学期が始まります。久しぶりに登園する子どもたちの顔には、どんな表情が見られるのか楽しみです。　それぞれのご家庭で家族と過ごしたり、出かけた先でいつもとは違う遊びや体験をしたり…。子どもたちはきっと、それぞれの夏を過ごしたことと思います。

さて、私の夏休みは…というと、残念ながら盆休みも返上して、昼も夜もひたすら入園説明動画の制作に追われておりました。説明のスライドを作ったり、何百枚もの子どもたちの写真を一枚一枚見返したりしながら、幼稚園での様々な場面を思い出す毎日でした。

そんな中、唯一夏の思い出となったのは職員研修で淡路島を訪れ徳島の大塚国際美術館にも足を運んだことです。大塚国際美術館は世界２６ヶ国の西洋名画１０００点余りを原寸大の陶板で忠実に再現した、日本最大級の陶板名画美術館です。鑑賞ルートは約４㎞と言われていますので、美術館の広さにも驚きです。作品数が多く滞在時間の２時間半ではとてもすべてを回れませんので、フロアマップの“お勧めルート”に沿って鑑賞しました。何しろ原寸大ですから、そのスケールの大きさに圧倒されました。システィーナの「スクロヴェーニ礼拝堂」は環境展示と言って、礼拝堂の空間そのものを再現してあり、天井も横の壁も 360 度すべてがフレスコ画の物語に包まれる空間になっていました。まさに“息をのむ”という言葉がピッタリだと思いました。たくさんの名画に囲まれていると、以前オランダを訪れたときのことを思い出しました。私はフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」が好きで、いつか本物を見てみたいと思っていました。実際にその絵の前に立ったとき、写真や映像で何度も見ていたはずなのに目の前にある作品から受ける印象は全く違うものでした。ゴッホ美術館やルーブル美術館で作品を見たときにも、同じような感動がありました。「実際に見る」「体験する」ということには、何か特別な力があるのかもしれません。



今回、入園説明動画を作るために子どもたちの写真を何度も見返していると、そこにも同じようなことを感じました。友だちと笑っている顔、夢中になって遊んでいる顔、真剣な顔、ちょっと困った顔……。私はすべてのクラスの保育を見ているわけではないので、「こんなことをしていたんだ！」「みんな、なんていい表情をしているんだろう！」と、写真を眺めることで改めて知ることがたくさんありました。幼稚園で過ごす一日は大人にとっては何気ない一日のように見えても、子どもたちにとっては見る・触れる・考える・試す・友だちと関わる…　そんな「心を動かす体験」の連続なのだと思います。

２学期はそのような体験がさらに増える学期です。運動会をはじめ、たくさんの行事が待っています。行事が多く忙しい学期でもありますが、だからこそ子どもたちの成長を大きく感じることのできる学期でもあります。「できるようになった」という結果だけではなく初めてのことに挑戦してみること、うまくいかなくてももう一度やってみること、友だちと一緒だから頑張れること、誰かの頑張る姿を見て自分もやってみようと思うこと。その一つひとつの経験が、子どもたちの心を豊かにし自信へとつながっていきます。２学期の終わりには、今とはまた違った表情を見せてくれる子どもたちがいることでしょう。

保護者の皆様にも行事や日々の生活を通して、お子様の成長をたくさん感じていただけたらと思います。子どもたちの心が沢山動く２学期となるよう、私たちも一日いち日を大切に過ごしてまいります。

園長　：　讃井　理香